

みずほまちなか会議

を開催しました

まちなか会議の結果を踏まえ、町に提言書を提出

28年11月に行った厚生文教委員会担当のまちなか会議に引き続き、29年1月25日、26日に「地域コミュニティを考える」をテーマとし、総務産業建設委員会が担当のまちなか会議を行いました。

町議会では、まちなか会議の中で出された意見などを参考に両委員会で協議を重ね、3月23日に町へ提言書を提出しました。

詳細は町議会ホームページでご覧いただけます。



提言書提出（厚生文教委員会）



提言書提出（総務産業建設委員会）

厚生文教委員会からの提言書

子育て支援事業の一環の移動児童館は、「あすなる児童館」の補完的な事業として始められ、平成28年度においては更に拡充し、一定の成果をあげられていると評価しており、担当部署の努力には敬意を表します。

しかしながら、より良い子育て環境を望む声は多く、まちなか会議においても、児童館を念頭とした子どもの居場所を求める声が多くありました。

当委員会では、これらの意見を踏まえ協議を重ねた結果、以下のとおり提言します。



一、移動児童館事業の更なる拡充

武蔵野コミュニティセンターでの移動児童館事業の開催日数を、夏休み期間中に限らず、あすなる児童館と同程度に拡充するよう努められたい。

また、長岡・元狭山コミュニティセンターにおいても同様な事業展開の必要性を調査・検討されたい。

一、子どもの居場所づくり

子育て支援の一環として、子どもたちが安全で安心できる場所の確保及び充実を図るため、放課後子ども教室、児童館事業や学童保育クラブ事業など、多くの施策の連携とより一層の強化を図られたい。

また、事業の調査・検討を行う上では、学校など公共施設の効率的な活用のほか、空き家の利用など、様々な視点で取り組まれたい。

一、子育て支援策を推進するため、一日も早い町組織も含めた、子育てに関する施策の一元化を図られたい。

総務産業建設委員会からの提言書

本年度、総務産業建設委員会は、コミュニティ振興を主要課題と位置づけ調査研究を行ってきた。特に、平成29年1月25日、26日に開催した「まちなか会議」では、多くの町内会・自治会・子ども会関係者等が参加し意見交換を行うことが出来た。この会議において、現状の町内会・自治会等の課題が抽出され、その対策を論じ合ったが、大半が、「瑞穂町コミュニティ振興計画」の記載に関連する事項であることが判明した。この結果を受け、委員会で検討した結果、役員不足、加入率低下といった多くの町内会・自治会等の課題を解決するためには、振興計画に基づく施策を着実に実行していくことが求められる。

当委員会では、これらの意見と現況の確認、調査結果を踏まえて協議を重ね、「瑞穂町コミュニティ振興計画」の目的達成に向け、以下の3点について対応するよう提言する。

一、地域コミュニティの位置付けの明確化

一、地域コミュニティのあり方の検討

一、連絡調整の場の充実

